



★「尾北教労からの提言と要請」の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。
「尾北教労」で検索

校長会との懇談会

子どもが輝き 教職員が健康に働ける学校を

校長会と尾北教労との懇談会が、2月9日に行われました。学校現場におけるさまざまな課題がある中ですが、これまで確認してきた次の4つの立場を大切にしようと話し合われました。

- 子どもの願いや心の痛みを真正面から受けとめる学校をつくる。
- 血の通った働きやすい職場をつくる。
- 保護者や地域としっかり手をつなぐ。
- 教育という専門性と崇高な使命にふさわしい教員としての身分を保障する。

以下に、「尾北教労からの提言と要請」をもとにした懇談会の内容の要旨を紹介します。

(組は組合の略、校は校長会の略)

道徳の教科化

組：道徳の指導に関しては、規範意識の押しつけや生活指導的な傾向に陥らず、日常生活の中で起きてくる問題や市民道徳、さらには平和・人権・環境等の社会の問題などについて考え合う授業を大切にします。そして、お互いの考えを認め合う中で、価値観を深めたり、人間らしい生き方を考えたりするなど、教育基本法で示された「人格の完成」を目指したものにしていきたいことが大切ではないか。

校：現職教育等で授業研究をしている。多様な意見が出るようにしていきたいと考えている。道徳ノートなどに自分の考えを書いて発表するようになっている。行動や生活の評価ではなく、考えがどう深まったかをみていきたい。

組：道徳が教科になったことで、決められた徳目を身につけさせることに固執した指導が行われ

ると、一面的な見方や考え方が押しつけられる恐れが生じないか。

校：徳目は道徳性を育てるための切り口にはなっていくと思う。意見を出し合う中で多面的に考え合うようにしていきたいことが大切であろう。

組：道徳の評価の問題は、記述式にせよ、子どもたちは評価されれば、その影響で本当の自分が出せなくなったり、教師の前でよい子を演じたりすることが心配される。本音から出発し、失敗を大切にそこから学ぶなど、人間らしい価値観を育てていく評価のあり方を検討していくことが大切ではないか。

校：評価については他の児童との比較ではなく、児童・生徒がどう成長したかを評価していく。そのためには日常生活の中で信頼関係を作り、のびのびと自分の考えを表現できるように学級づくりをしていくことが大切である。

組：道徳の授業を行うにあたっては、特定の資料や教科書の使用を押しつけるのではなく、子どもや学級の実態に合わせた資料を選択するなど柔軟な対応や教師の自主性を尊重して進めることが大切ではないか。

校：感動が得られる教材や地域教材等を扱っていくことが大切であろう。発達に合わせて年間計画を作っていくことが必要であり、教師の工夫が大切だと考えている。

小学校での 英語教科化

組：習得しなければならぬ単語数の多さや通知

表の評価等により、このままでは早期に英語嫌いを生み出してしまふ心配があるので、小学校での英語の教科化については、教科化そのものの是非を含めた見直しを進めることが必要ではないか。

校：小学校での英語の教科化は様々な課題もあるが、英語嫌いを生み出さないようにしていきたいと思う。小学校では英語に触れることを大切にしたいが、中学校では「単語などマスターして来てもらわないと困る」という声もあり、それだと英語嫌いを生み出すことにつながるの難しい問題だと感じている。

組：多忙化にさらに拍車がかからぬように英語専科教員や英語講師の加配など、必要な条件整備について関係機関に働きかけると共に、担任のみで行う際の負担軽減を図ることが必要ではないか。

校：市町によっては英語講師の加配を計画しているところもある。先行する自治体を参考にしながら関係機関には働きかけていきたい。

組：授業時数の確保については、現在の日課の中で無理なくできる工夫をし、夏休みや土曜日などに行うといった新たな負担増にならないようにすることが大切ではないか。

校：先生や子どもの負担にならないようにしていきたい。

全国学力テスト

組：全国学力テストは、「学力の特定の一部分」を測定するものであり、市町村・学校別の成績公表や過去問題練習などの事前対策で、学びがゆがめられたり、学校現場が振り回されたりしないようにすることが重要ではないか。

校：調査の目的は、教育施策の改善を図るとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるためとされている。測れるのは

学力の一部である。他と競争するためのものではない。

テスト対策はよくない。愛知県は、市町村別や学校別の結果を公表していない。引き続きこの方針が継続されるようにしたい。

【組】：再来年度から、すべての中学校で、英語の調査が加わる。現行の調査では、1日で済んでいたものが、2日間を要することとなり、学校教育に支障が生じるのではない。

【校】：実際に予備調査をやった学校では、全員録音しなければならぬなど大変だったと聞いている。今後の方向を注視していきたい。

勤務時間の適正化

(7時間45分勤務について)

【組】：職員会議などは、16時15分に終わるようになり、7時間45分勤務が確実に守られるようにしていきたい。

【校】：職員会議などは、16時15分に終了するのを原則としたい。ただし、どうしても終わらない場合は、16時15分になった時点で協議・確認して、後日に延期するか、そのまま続行する場合は、別の日に割り振りをを行うようにしたい。

【組】：昼の休憩時間を使って集会や行事などを行った場合は、16時15分に全職員一斉に勤務の拘束を解いていただきたい。

【校】：昼の休憩時に行わないのが原則である。ただし、外部との関係でどうしても行わなければならないときは、割り振りをしたい。

(割振変更簿の設置について)

【組】：やむを得ず時間外勤務をした場合は、確実に割り振りをしていたらきたい。割り振りについては、口頭のみで済ませる

のではなく、管理職が割り振りの日時数を文書等できちんと伝え、個人別の割振変更簿を設置し、すべての職員が、自分の希望に合わせて確実に割り振りがとれるようにしていきたい。

【校】：時間外勤務はできるだけ生じないようにしていきたい。それと同時に、「学校における働き方改革に関する緊急提言」(文部科学大臣決定・平成29年12月)でも、時間外勤務の割り振りの徹底について触れられている。

割り振りは、誰もが分かりやすく、取りやすくしなければならぬ。割り振り対象となる業務や日時数は、その都度知らせていきたい。

尾北の全ての学校に、割振変更簿を設置する方向で考えている。

(休憩時間の割り振りについて)

【組】：ほとんどの人が昼の休憩も夕方の休憩もとれずに仕事をしているのが実態である。せめて、とれなかった休憩時間は、割り振りをしてほしいというのが、みんなの願いである。少なくとも、管理職から、「昼の休憩がとれなかった場合は、管理職に申し出てもらえば、早く帰ることができるようにする。」ということを全職員に説明していただきたい。

【校】：働き続けていると心に痛めている。7時間45分の連続勤務をつくらないことが原則である。しかし、実際には、生徒指導やけがへの対応などで、休憩がとれない場合も出てくる。

その場合は、「管理職に申し出てもらえば、早く帰る」とか「お休みの日にする。」を含め、弾力的に運用していきたい。

【組】：運動会や学習発表会などで休日に勤務を命じたときは、「健康と福祉を害することとならない」ように、日ごろの時間外勤務の割り振りをを行うことで、早めに勤

(休日勤務について)

務の拘束を解いていただきたい。

【校】：週休日は大切であり、勤務を命じないのが原則であるが、保護者の参観のために、行事などを設定せざるを得ない場合もある。その場合、基本的には、別の日を休みとし、7時間45分勤務となる。

ただし、日ごろの勤務の多さに配慮して、当該時間の割り振り変更で対応することはできる。

【組】：部活動については、過熱のあまり健康や家庭を犠牲にすることのないように、朝の部活動をやめるなどの改善を進めていただきたい。

(部活動の過熱防止)

【校】：県の動きを待たずともなく、市町村で方針が定められ、各学校でできることからの対応が始まっている。

朝練のない日や、帰りの部活動をしない日も設定している。帰りの練習がないと、明るいうちから学年の打ち合わせができるようになっていく。また、顧問の複数化や部活動の種類を減らすことで、教員の負担を減らすようにしている。そして、生徒も、朝練がない日は、余裕を持って登校している。このように、教員だけでなく生徒も休養がとれることを大切にしていきたい。

ただし、部活動を減らすことについては、保護者の理解を十分に得られているわけではない。社会的合意を得られるようにすることが必要である。

校で具体的に取り組みを進めることが必要ではないか。

【校】：教員の働きすぎがようやく社会的に認知されるようになった。各市町教育委員会は多忙化解消プランに沿って取り組んできている。長期休業中の「休校日」、留守録電話の設置、小学校陸上運動記録会の廃止、中学校の部活時間の縮小などである。教職員定数の改善についても関係機関に要望を出し続けている。

【組】：職員が病気やけがで休む際には、本人に療養休暇が取れることを伝えていただきたい。また療養休暇に関する以下の内容を職員に周知していただきたい。

- ア 療養休暇は、1日や1時間単位で取れること。
- イ 30日未満の取得ならポータスや給与などの処遇には影響がないこと。
- ウ 1週間以内の休暇であれば、特に診断書は必要ないこと。

【校】：療養休暇は、職場で周知してきちんと取れるようにしなければならぬ。

【組】：教員免許更新制や教職員評価制度も多忙化につながるのではないか。

【校】：常に新しい勉強は必要だが、教員免許更新制のように制度化されることでやらなければならないが増えるのは大変であると思う。

【組】：学力テストもそうだが、学校の中に競争を煽る雰囲気があると、それが教員や子どもたちのストレスにつながるのではない。気持ちよく働くことができる職場づくりに向け、管理職がリーダーシップを発揮していただきたい。

【校】：学校で子どもたちをよりよく育ていくためには、教員が働きやすい環境で勤められるようにしたい。

一人一人の教員が、いい気持ちで働けるような学校にしていきたい。

健康問題と多忙化解消

【組】：教職員の健康問題に直結する多忙化の問題は、教育の質を落とすことにもつながる。多忙化解消にむけて、各市町や学